

荒川に関わる歴史的遺産の調査をしています。

荒川上流部の近代改修（大正7年～）が始まってもうすぐ100年が経ちます。平成の時代になっても、先人たちの残した遺産が流域の至る所に存在します。そのような治水に関わる歴史的遺産などを、調査を通じてご紹介していきたいと思います。

【二瀬ダム】



形式：重力式アーチコンクリートダム

ダム内部の様子

◇常用洪水吐
洪水調節用のゲート



コンジットゲート

◇ダム内部の通路
内部通路もアーチを描く



◇ダム内部の扉

「昭和の技術」

昭和36年に完成した二瀬ダムは、あの「戦艦大和」を建造した呉海軍工廠の流れを汲む(株)呉造船所の技術が今も生きています。

巨大なコンジットゲート、船のハッチのような扉など当時の製造品が持つ重厚なたたずまいに満ちています。



アクセス

埼玉県秩父市大滝3931-1

国土交通省二瀬ダム管理事務所から二瀬ダムまで徒歩約5分

荒川水系本川上流の埼玉県秩父市大立地先に埼玉県最初の多目的ダムとして、昭和36年12月に完成しました。完成から50年が経過した今も荒川流域の安全・安心のために、その重要な役割を果たしております。

荒川に関わる歴史的遺産の調査をしています。

【寛保洪水位^{まがいひょう}磨崖標】

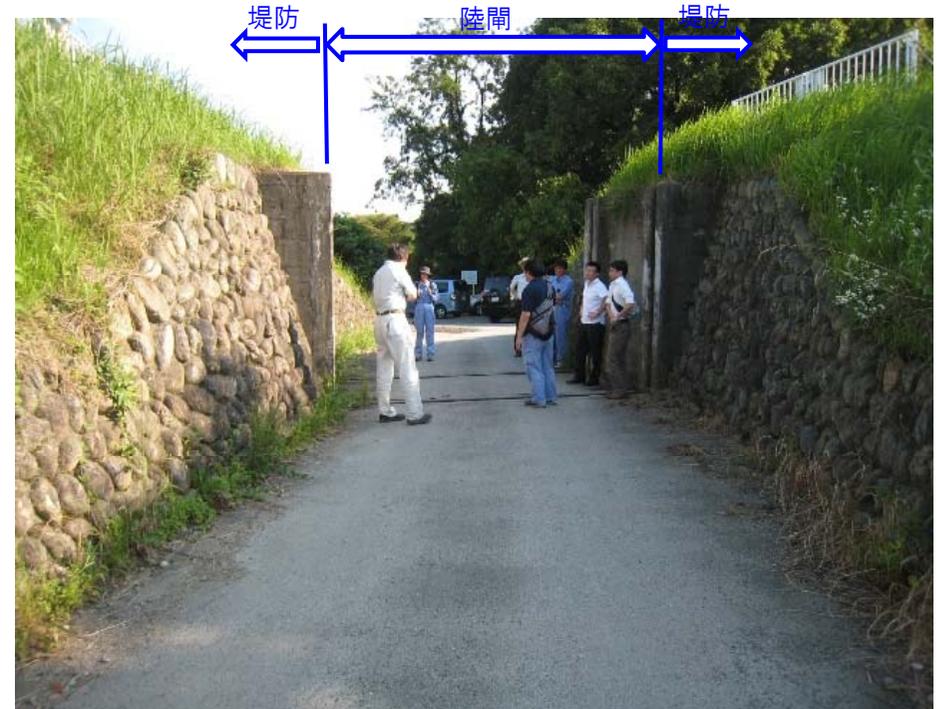


「水」という字が見えますでしょうか？

寛保2年の洪水は江戸第一の洪水といわれ、その規模の大きさから多くの古文書等に記されている。よく知られる「樋口村寛保2年洪水位磨崖標」（長瀬町）は、この時の水位を「水」という字で岩盤に示したものであり、現在の荒川の川床から24mの高さに位置している。

アクセス
埼玉県秩父郡長瀬町樋口（長瀬第二小学校そば）
秩父鉄道「樋口駅」徒歩3分

【大麻生^{りっこう}陸閘】



昭和29年12月に完成した荒川に現存する唯一の陸閘堤防上には完成記念碑があります。

※熊谷市が河川占用し、管理を行っております。

陸閘：堤内側（街側）と堤外側（川側）との交通のために坂路などによって堤防を乗り越える代わりに堤防のある高さまで切り開き、洪水の時はこれをゲートなどによって締め切る構造とした工作物

アクセス
埼玉県熊谷市大麻生（荒川大麻生公園近く）
秩父鉄道車両基地近く

荒川に関わる歴史的遺産の調査をしています。

【熊谷堤】



万平公園内

荒川の洪水から町を守る為に作られた旧堤防が約200mにわたり数本の老樹の桜とともに残っています。

アクセス
埼玉県熊谷市万平町（万平公園内）